

# 加茂里山通信

平成29年  
夏号

発行 市原商工会議所  
加茂里山通信編集部  
編集長 征矢 貴志

「この年ほど市原商工会議所加茂支部と加茂里山通信では、市原有志の会と共に福島県のいわきの人たちにタケノコや児童書などの支援を行ってきました。その縁あつて、5月にいわきから子供たちがやってきました。この企画に関わった有志の会の藤田さんのレポートです。」



日頃加茂地区の皆様には、「被災地の子供に本を届けるプロジェクト」・「市原の竹の子を届けるプロジェクト」等に、協力頂き誠にありがとうございます。私

達は、東日本大震災で甚大な被害にあつたいわき市四ツ倉・久之浜地区の支援を続け、早くも6年が経ちました。現在私たちが支援している被災地は、視界に入りきれない位に長くて要塞の様な防潮堤が海沿いにほぼ完成し、ライフライン等も整いつつあります。新しい商店街も開業し、民家の建設も少しづつ目立つようになって来ました。しかし放射線量は国が規制している量はクリアしているものの、住民にとっては郷土愛

## いわきから子供たちがやってきました!

があるからこそ生活しているのが現状で、まさにグレーゾーンの様な地域で、国や東京電力の補償も出ていないと伺っています。数年前から市原有志の会は音楽や踊りなどで交流し、心の支援を大切に活動に切り替え、物資の提供を減らしています。鶴舞桜が丘高校の生徒の育てた花や、竹の子を市原から持ち込んだり、依頼のあつた児童図書等を持って行ったりしています。

この度、「チャイルドハウスふくまる」を運営するNPO法人「震災遺児・孤児を見守る会」が企画した市原市に一泊する計画が持ち上がりました。有志の会では早速市民ボランティア等にお願ひして受入れ態勢の準備をしました。5月13日、いわき市を7時に出発して「長谷川ライディングファーム」に12時に到着



着。ファームの会員の皆様にもお手伝い頂き、小出市長を交えたBQでもお楽しみしました。お腹一杯になったところで乗馬やさやみ体験。14時に「市原ぞうの国」へ移動してショーを見物する予定でしたが、あいにく雨が本降りとなり、特別に施設内の「ぞうさんの家」に案内されました。そこでの象さんへのやさやりやスキンシップに子供たちは興奮気味。初めての体験で大喜びでした。



16時「加茂城」に到着し雨で冷えた体を名物の「洞窟風呂」で温め、全員で夕食をいただき、メインイベントの市原の子供達との交流会となりました。生バンドの「RevuP」の演奏する子供向けの音楽に溶け込みノリノリで踊ったり・歌ったり・楽しいゲームを行い、いわきの子供達と市原の子供達が笑顔で一つになりました。あつという間に時間も過ぎて就寝時間となり、それぞれの部屋へ。

翌日朝食後全員で記念撮影し、玄関前で大きな声で「ありがとう」をしました。今回の企画は盛りだくさんの内容となりましたが、子供達はきっと喜んでくれたと思います。交流会実施にあたり、協力を頂いた皆様に、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。今回のリーダーである曾我泉美さんのFacebookで動画が紹介され何と約5000ものビューがあり全国の皆様が見ています。数の多さにびっくりしています。《協力頂いた皆様 敬称略》  
加茂城旅館、市原ぞうの国、片岡畜産、大森屋青果店、長谷川ライディングファームと会員の皆さん、辰巳エステート、リカーショップトキタ、ボランティアの方たち、RevuP、ぶつちゃん・ペリンズ、いちほら・コミュニケーション・ネットワーク・テレビ

後日、子供たちの絵とお母さんたちのお礼の文章がたぐさん届きました。その一つを紹介いたします

「市原の皆様

この度はふくまる元氣交流会に参加させていただき、ありがとうございました。長谷川ライディングファーム

では雨の中にもかかわらず、乗馬体験や馬に餌をあげる体験など、普段できない体験をさせていただきました。子供達も大興奮でした。また、バーベキューでいただいたもち豚やお野菜の美味しかったこと！飾り巻き寿司もとてもきれいで、お腹いっぱい。幸せな時間をいただきました。市原ぞうの国では、ランディ君を間近に見ることができただけでなく、鼻に触ったり、餌をあげたりなど、少しドキドキしながらも初めての体験に目を輝かせていたのが印象的でした。そして加茂城旅館さんでの交流会では、生演奏で素敵な演奏や歌を聞かせていただいたり、音楽に合わせて踊ったり、お姉さんやお兄さん達と楽しいゲームをしたり・・・。お風呂に入ったのにまた汗だくなる程楽しんでいました。その夜、布団に入ると、「今日は楽しいことだらけだったね・・・」と言いながらあつという間に寝てしまいました。その姿を見て、私も本当に幸せな気持ちで眠りにつくことができました。



震災後6年がたちましたが、福島の復興は表面上は進んでいるように思います。我が家も自宅が全壊したのですが、新しい家が建ち、周りの道路も整備されて、この6年間で少しずつ日常を取り戻してきました。一方で、先日ニュースにもなった原発いじめなどの話を聞くと、福島に育つたというだけで子供にハンディを背負わせているのではないかと、これから県外へ出て行つたとき苦勞するのだろうか・・・と漠然とした不安を感じずにはいられません。ですが、今回市原市の皆様のあたたかいお心遣いをいただき、福島の子供達をずっと見守り、応援してくださる方が県外にも大勢いらつしやることを改めて感じ、心に元気をいただきました。まだ幼い我が子ですが、今回の交流会のことを度々思い出し、大人になるまで覚えていてほしいと思います。また、親である私たちも、いただいた「厚意に報いるべく、子育てを頑張っていきたい」と思います。改めて、この度は楽しい時間を本当にありがとうございました。

また、市原市に行きます。」

(藤田和利里山通信員)

## 加茂学園1年生です!

満開の桜の中、今年も加茂学園に十三名の加茂っ子が入学してきました。子ども達は、毎日笑顔いっぱい学校生活を楽しんでいきます。

入学してから三ヶ月が経ち、子ども達はすっかりたくましくなりました。友達がたくさんでき、休み時間には元気いっぱい外で遊んでいます。五月には、体育祭でお兄さん、お姉さんと一緒に走ったり応援したりしました。六月にはクオオードの森で生きもの探検をしました。新しい経験をするたびに、目をきらきらと輝かせて頑張っている一年生です。

担任の先生より



## 入学おめでとう!

きみたちのえがおで

みんながしあわせになるよ

# 私たちは劇場の中にいた

加茂地区におけるこの先の最大の課題は何かと言え、少子高齢化による人口減少であると考えます。これは別にこの加茂地区に限ったことではなく、日本のあちこちで起こっていることですが、加茂地区では具体的にどうなのか。すでに学校は小学校中学校が一つになり、保育園もさらに減ると聞いています。消防団も分団が統合されてその数は減っていくでしょうし、町会もいずれ併合されることになるかもしれません。人が減るといふことは商売のお客さんが減るといふことでもあるので、商売自体が成り立たなくなる可能性もあります。すでに商店の数はだいぶ減ってきています。今の若い世代の人口構成から考えると、さらにこの現象は進行し、このままではある時期から急激に人口も戸数も減っていくことになりそうです。他から新たな人たちが入ってこない限り、人口減少は緩やかにはならないでしょう。

# 里山からの発信

翻って加茂地区は他から人が入ってくるだけの魅力のあるところなのか？この点に関して交通、環境、生活手段などを考えてみると次のようなことがわかります。

車がある限り近隣の食料や生活物資の買い物に困らないし、圏央道と鶴舞、バスターミナルができて東京まで1時間の距離に劇的に変化したことで、交通事情ははるかに良くなりました。少ないながらバスも走るようになりました。買い物はネットでもできるような時代になったので、どこにいてもパソコンやスマホがあれば本でも電気製品でも日用雑貨品でも衣料品でも手に入るようになりました。以前に比べて便利になったと言えます。(車もなく、パソコンやスマホを活用しない人にとっては厳しい現実があることは事実)問題は生活手段なのですが、五井や茂原、千葉または東京まで通勤圏で、東京は通学圏と言えます。高速バスで丸の内に通っている人もいます。手に職を持つ人ならば自らを売り込む

段は今いくらでもあるし、近隣にそれを広げることで顧客の確保も可能となるでしょう。山と川と鉄道があり(山があつて川のないところ、川があつて山のないところ)、山と川があつて鉄道のないところの方が多く思われる)、ダム湖があり、トロッコ列車があり、農地を借りることで畑を耕し自分で野菜を作ることができます。目にしみるくらいに緑があり、空気もよい。鳥の鳴き声もよく聞ける。風の竹林を渡る音も聞こえる。いくつもある産直で安く野菜や果物を手に入れることもできる。ここに居ては当たり前のようなそんなことが、他から見たら大いなる魅力と映るのではないかと思います。

そして芸術祭の「いちほらアート×ミックス」が行われました。ほとんどを加茂地区で行い、芸術祭全体を一つの劇場と考えると私たちは劇場の中にいたと言えます。居ながらにして作家たちの作品を鑑賞し、イベントを体験できました。私たちは貴重な体験を2度までも、劇場の中で味わうことができました。ここに住んでいることで、見る



ただでなく参加することもできました。作家の人たちと触れ合うこともできました。そういうところは千葉県下でどこだけです。そんな場所に私たちはいます。受け入れる準備さえすれば、こんな魅力的な場所に他からは必ずやってくる。そして新しく入ってきた人たちが何かを少しずつ変えていくことになりそうです。

その動きはもう始まっています。「地域おこし協力隊」の高橋さんが石神の菜の花を養種油に変えました。野外音楽堂でも催し物が企画されています。新しいカフェスタイルの店や飲食店もできました。里山の活動団体もみんな元気です。加茂地区はこれから先、新しい人を入れながら少しずつ変わっていくのだと思います。(征矢里山通信員)

# 第2分団 市大会で準優勝

6月11日 市原市総合防災センターに於いて第五十回市原市消防操法大会が開催され加茂支団の代表として我が第2分団(高滝・不入・大和田 細淵分団長)が出場しました。我々の二分団は去る5月21日に行われた加茂地区消防操法大会に於いて初優勝し、その後加茂分署において加茂分署の方々や本部員の指導のもと、日夜練習に励んでまいりました。



当日は操作順位1番と云うプレッシャー中私も選手(2番員)として仲間の要員と共に練習の成果を遺憾無く発揮し、素晴らしい演技をすることが出来たと思います。結果は残念ながら僅差で優勝には届かず準優勝ではありましたが、市の大会に初出場にもかかわらず、これぞ加茂支団の操法をいう演技をする事ができたと思えます。



今大会まで、指導いただいた加茂分署の職員の方々応援いただいた町会の皆様、各分団の方々に厚く御礼申し上げます。(平田里山通信員)

# 月崎-大久保間線路沿い整備

6月17日(土)に市役所小湊鉄道、里山連合などを中心に沿線の草刈りを行いました。秋の種まきのため、そして来年の菜の花の絶景を目指して、60名ぐら



# 本格的な西川の整備始まる

50数箇の鵜穴(おうけつ)が存在する土敷谷川支流の西川の整備は、3年前から細々と行ってきましたが、今年度に入ってから燃えるものがあり、加速度を増してきています。川に降りる途中の杉を60本ほど伐採し、その伐採した杉を活用して木道を作ったり、景観を損なう樹木や竹を伐採したり、川のごみを掃



除したりと見違える程の変容を見せています。鵜穴の中には小魚がいっぱいいて、釣りが楽しめます。裸足になって水の気持ち良さを楽しめます。一周できるハイキングを楽しめます。そんな楽しい場所に子どもたちを呼んで、川遊び体験を夏休みに計画しています。「隠れた名所を目的たる名所」を目指して活動しています。(小宮里山通信員)

# 今年も元気に田植えをしました

ここ2年ほど行ってきた雨総ボーズの田植えを、今年からは台からの参加者を入れて100人以上の大人数で、4月30日の快晴の下、上総久保駅前で行いました。定番のトロッコ列車を背景にした記念写真も撮りました。



# ホタル通信2017

上古敷里山の会のホタル観賞会が、6月10日、11日と行われた。里山整備と農村公園整備の活動を20年近く行っているが、少しずつ環境が変わってきている。動物の変化により、小川の様子も変わっている。ホタルの餌となるカワニナが減っている。その要因としては、カワニナの餌となるクレンソウが減っている。減っているというより、成長が悪かった。いつ繁殖するのだろうと心配しているうちに、温かくなってしまう。いろいろな処で、ホタル観賞会が行われていたが、例年どおりの盛況を望めないと聞くと、数年前のホタルの乱舞を期待しての来場の方々もいたが、やはり自由自在に飛んでくれなかった。ゲンジホタルの撮影をしようとしてみる方々もいるが、スマホ等で撮る場合は本当に近くまで接近して、ホタル自体を撮影するしかない。



段階的に、コンパクトカメラであれば、星毛ードなどのある程度の開放時間が確保できる機能を備えており、三脚等で撮影中でもぶれない様に固定することが大事だ。AFフォーカス機能は、OFFにすることが出来れば一番良いのだが、あの光だけではどうにも出来ない。次の一眼レフカメラでも、30秒以上の開放バルブが出来ないように設定し、ISOも高い高め、絞り4ほどに何十枚と多くの撮影を行ってみる。数分間の開放にて、柔らかなホタルの軌跡を撮ることが出来る。今回も、19時半すぎからホタルの活動が始まった。1頭、2頭と少しずつ点灯が始まる。ピークは20時頃となり、今回は山側の活動がチラホラと見ることが出来たが、正面右の堀の活動は、雑木に邪魔され確認出来なかった。里山の会の今後の活動として、山際の水路の再構築が秋の課題となる事だろう。(矢代里山通信員)



# 加茂学園は今

## 加茂学園体育祭

今年のスローガン「みんな最強！ 燃やせ魂！！」思いをつなぎ 感動のゴールへ」のもと、全校生徒193名が優勝を目指して全力で競い合いました。

1・2年生によるかわいらしいダンス、8・9年生による迫力ある騎馬戦、6年生と保護者による二人三脚など、様々な競技が行われました。中でも1・9年生のペア種目「いっしょに走ろうね」と2・8年生の「パンツレース」では、お兄さんやお姉さんが小さな低学年を思いやり、勝負を度外視して笑顔でふれあう姿が見られ、会場が和やかな雰囲気になりました。

(矢野里山通信員)



**1年生**  
どうぶつにたいいくさいがありました。かぞくがみてくれてうれしかったです。だんすはおどるとわくわくしました。

**3年生**  
土曜日に体育祭をやりました。わたしが一番楽しかったのは加茂学園ランです。おどる前はすくなくドキドキしたし、じょうずに出来るか心配でした。ソーラン節が始まった時、お父さんがビデオをとってくれている事に気がついて、力いっぱいおどろうと思いました。「かつこよかったね。」と言ってもらえて、うれしかったです。

**7年生**  
私は実行委員でした。体育祭を運営する実行委員として、責任感を持つことはとても大事であると思いましたが、実行委員として動くことができたのもたくさんの方に助けていただいたからです。本当にありがとうございます。先生方や地域の方々のおかげで体育祭を行うことができ、そして、全校の皆さんのおかげで大成功させることができました。とても感謝しています。

**9年生**



今回の体育祭では、今まで自分たちがやってきたことを見ていただけたと思います。ひとつの行事を成功させることはとても大変なことですが、皆さんの応援がなければこの行事ができなかったこと、絶対に忘れないように、そして、その感謝の気持ちをしっかりと伝えなくてはならないことも分かりました。また、加茂の良さや伝統を残していくことは難しいことだと思えました。加茂の文化には良いところがたくさんあるので、忘れてはいけません。最学年として、新しいことや考えを取り入れるだけではなく、足元は今までの先輩の伝統を固めていけたら良いなと考えています。

来賓  
全力で競い合う姿、小さな子を思いやる姿に胸が熱くなりました。閉会式でお互いをたたえ合う応援団長の言葉には涙がこぼれそうになりました。

### 昭和村納涼盆踊り大会

日時 8月5日(土)  
18:30~20:30

会場 市原市万野782番地6  
社会福祉法人 昭和村  
社会福祉法人 昭和村  
協賛 万野野友会  
かき氷・水ヨーヨー・飲み物(アルコールビール・ジュース類) 無料  
豪華景品の抽選会を行います

### クレイン・トータス・元気館 納涼祭

日時 8月26日(土)  
17:00~19:00(雨天中止)

場所 鶴舞559-1  
クレイン・トータス芝生広場

鶴舞の自然の中で行われる納涼祭です。屋台も盆踊り、職員余興等、楽しいイベントがたくさんありますのでぜひお越しください。

## 市原商工会議所ニュース 高校生ゴルフ場視察研修会

市原市には33箇所のゴルフ場があり、市の面積の11%を占めています。日本一多くのゴルフ場を持つ自治体として有名です。市原市の年間観光客数、約340万人のうち、ゴルフ場利用客は約150万人と44%を占めており、市の観光の中心になっていることが分かります。

市原市の産業を支えるゴルフ場を職場にという観点から、またゴルフを体験して楽しさに触れ、身近かに感じてもらうために視察研修会を企画しました。商工会議所では平成20年から行っていますが、今回は市原市との共催となりました。

今年度は千葉新日本ゴルフ倶楽部、鶴舞カントリー倶楽部、オークビレッジゴルフクラブ、千葉よみうりカントリークラブの4つのゴルフ場に会場の協力を頂き実施しました。



当日は市内の高校を中心に50名の生徒が参加。梅雨の合間の晴天で芝生の緑もより一層綺麗に感じられました。体験コースでは、バター体験とテーパー体験の2班に分かれてゴルフに触れ、最後はプロゴルファーとともに1ホール回り、プロの素晴らしいショットを間近で見学しました。体験した高校生たちからは「止まっていたボールを打つことがこんなに難しいとは思わなかった」「コースが開放的で気持ちがいい」など、さまざまな感想が聞かれました。



また仕事見学では芝刈りなどのコース管理、レストラン、フロントなどゴルフ場の裏側までじっくり見学し、「普段見えない部分から頑張ることでお客様に楽しんでもらう。そういったサービスをすることがゴルフ場の仕事です」と現場で働く、先輩の従業員から説明を受けていました。このゴルフ体験、仕事見学ツアーを通じて、ゴルフやゴルフに携わる仕事に興味を持って頂き、将来的に市原市の活性化に繋がればと思います。

(霜崎里山通信員)

### 編集後記

・小さい時の記憶というのは案外覚えていて、音や映像や歌などをキーワードに一瞬して思い出したりすることがあります。今回のいわきから来た子供たちは震災後に生まれた子たちが多かったのですが、馬やゾウ、そしてみんなで歌ったりゲームをしたことが、本当に楽しかった思い出として心の底深く残り、いつかある瞬間にフラッシュバックのようによみがえったらいなと思います。これから先子供たちが成長するにつれて直面する厳しい現実があったとしても、そのことが少しでも心の支えになってくれたらと、当日雨の中参加した多くのボランティアが願っていることと思います。

・今回から加茂学園の今の姿をお伝えしていきます。今年赴任された山田校長先生の「加茂地区の多くの人たちに今の加茂学園のことを知ってもらいたい」という思いに、ひとつのコーナーを設けました。これから四季折々の加茂学園の姿をお伝えしていきます。

・地域おこし協力隊の高橋さんが大活躍しています。石神での菜の花刈りそして菜種油への精製、西川の整備にも関り(西川の記事の地図は彼が作成したものです)、この通信でも記事を書き、編集会議にも参加しています。益々の活躍を期待します。

・加茂里山通信は市原商工会議所の職員を担当者を通して印刷所とのやり取りをしています。そのため、職員の休みの日、日が間に入ると編集の仕上げが早まったり、折り返しの持ち込みが遅れたりすることがあります。こちらもいろいろ忙しかったりすると時間的に厳しいこともあります。ただ、内容や校正をおろそかにするわけにはいきませんので、どうしても1日、2日のずれが生じることもあります。新聞折り込みの予定日がずれ込むこともあるかもしれませんが、その辺はどうか鷹場に対応していただくと助かります。そんなところかなど、そんな感じでアバウトにお待ちいただくと嬉しく思います。

(征天里山通信員)

次回は10月25日発行予定です。

情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。  
メールでも受け付けます。  
記事に関するご意見、お問い合わせは左記へ。  
市原商工会議所  
0436(22)4305 担当 霜崎  
Eメール shimozaki@i-cci.or.jp

房総・養老深谷の地酒お土産は

養老深谷駅前  
**角屋商店**  
養老深谷観光協会窓口

市原市朝生原181  
TEL 0436-96-1108  
FAX 0436-96-0052

愛車のある幸せな暮らし  
応援します!

安全・安心  
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店  
**小茶自動車**

市原市石神227  
TEL 0436-96-0482  
FAX 0436-96-1293

皆様と共に歩む観光

真夏の盛り、バス釣り最高!

**高滝湖観光企業組合**

TEL 0436-98-1277